



みんなの元気の源

守屋 佳奈さん（上竹田）

成人式の30秒スピーチで「今は副店長ですが、店長目指して頑張っています」と話してくれた佳奈さんは、アイシティ21で洋服などの販売をしています。

お店のセール時には呼び込みの声がフロア一中に響き渡ります。佳奈さん目当てで来店してくれる常連さんとの会話や、おすすめした服を買ってくれる人がいることがとても嬉しいそうです。

「お店を通してみんなを元気にできるような人になりたい」と、とびっきりの笑顔でこたえてくれました。

（8月30日 Green Parks topicにて）

働く姿
シリーズ

告知板

第67回山形村総合文化祭
参加者募集のお知らせ

個人、団体、サークルの自慢の作品を出展したり、ステージで日頃の活動の成果を発表してみませんか？

開催日時 11月4日(土)
午前10時30分～午後4時30分
11月5日(日)
午前9時～午後3時

会場 トレーニングセンター
芸能 ステージ発表:ふるさと大ホール
展示発表・ワークショップ:体育館ほか

申込方法 芸能発表は9月28日(木)、展示発表は10月3日(火)までにトレセンへ申込書の提出をお願いします。なお、申込書はトレセン窓口にもあります。

打合せ 申込みをされた方は、以下の日程で打ち合せ会議を行います。
・芸能(ステージ)発表
10月3日(火)午後7時30分～
・展示発表・ワークショップ
10月13日(金)午後7時30分～
(いずれもトレセンで実施)

その他 ご不明な点は山形村公民館までお問い合わせください。
(☎98-3155)

清水高原ジャズピクニック

8月20日(日)、清水高原テニスコートの一角で第6回清水高原ジャズピクニックが開催されました。クラブハウスのテラスがステージとなり、様々な楽器の音色が披露されました。ムーディーな雰囲気と激しいビート、時折入る観客の合いの手が一体となって山間に響き渡り、楽しい時間が瞬く間に過ぎていきました。



地震総合防災訓練

9月3日(日)、地震総合防災訓練が実施され、各区の避難場所で安否確認しました。近年、大規模自然災害が多発し、日頃の訓練の重要性が再認識されていますが、個人・組織間の考え方に差があるという現状も見えてきました。実際に災害が発生すると訓練のシナリオ通りのことはできないという考え方もあるようですが、事前準備していることで得られる精神的余裕、現場での応用のヒラメキがあるとも考えられます。どこに行けば誰がいるのか、誰とどう協力すればよいのか考えておきたいものです。



中大池：放水訓練



下竹田：防災倉庫の備品点検



上竹田：三角巾を用いた応急処置の実演

9月9日(土)、ピアやまがたにて敬老祭が行われました。「山形村の今は皆様のご苦労のおかげです」と所長より謝辞が述べられ、節目の年齢を迎えた方へ村長より記念品が手渡されました。また、日頃より運営に協力された各団体代表者へ感謝状が贈られました。



ピアやまがた敬老祭



下大池：安否確認、区長講話



上大池：安否確認



小坂：トリアージ訓練

山すそ

「お前のこの手とあの子の心と、どっちが痛かったと思う？」父は真つ赤になつた私の手を掴み、ひとことそう言った。小学校低学年の頃、心無い言葉で知り合いを酷く傷つけた。それを見た父は私の手を自分の掌に乗せ、大人の力で力強く叩いた。手は当然ひどく痛んだが、それ以上に心が痛かった。これまでに叱られたことは多々あるが、この時のことは鮮明に覚えている。正直、親の教育方針に不満を感じたことは少なくない。学生の頃は「不自由で不幸だ」と毎日嘆いた。だが、躰ができない親が社会問題に取り上げられるようになって改めて振り返ってみると、絶妙なバランスで導いてくれたのだと気づくことが多い。今となっては感謝の言葉しかない。父はもうすぐ70歳。いまだにフラフラしている私に言いたいことはいろいろあるだろうが、じつと我慢して見守ってくれている。課題は山積しているが、早く一人前になつた姿を見せたいものである。

図書館からのお知らせ

*本であそぼ 秋編
『からすのパンやさん』の
パン作り 参加者募集
絵本『からすのパンやさん』(かこさとし作 偕成社)に出てくるパンを作ってみましょう。
日時: 10月22日(日)
10:00~12:00
場所: 保健センター
「いちいの里」
調理室
講師: 和田峯子さん
持ち物: エプロン・三角巾など
定員: 20名
問い合わせ: 山形村図書館
98-3155



あなたの本との出会いをお手伝い……図書館便り

BOOK No.31

編集=山形村図書館

「図書館ってどこにあるの？」

はい、ここです。
待望の銘板ができました



トレーニングセンターの駐車場の目の前という立地にありながら、「山形村の図書館ってどこにあるんだっけ?」と言われることもある山形村図書館。そこで、駐車場からも見えるよう、入り口の壁に『山形村図書館』の銘板をつけてもらいました。もうこれで迷わない?

大満足の製本講座

自分だけの和綴じ本

毎回好評の「製本講座」も3回目になりました。2年前の講座で「今度は御朱印帳なんてどうですかね?」という参加者の方の一言が実現しました。今回は、御朱印帳にもなる和綴じ本を作りました。御朱印帳とは、各地のお寺を参詣した証・御朱印をいただくための冊子です。講師の鈴木信さん(シンセイホン)がいろいろ御朱印帳を研究して、これぞというサイズで材料を用意してくださいました。



9月2日(土)、トレーニングセンターのふるさと大ホールで、19名の参加者を取り組みました。「今回は、綴じるところをマスターしたい」とやる気満々の皆さん。御朱印帳にふさわしい、シックな表紙の布から好みのものを選び、表紙を作り、中身になる冊子を組み込みます。千枚通しであげた穴

を、表紙との配色を楽しみながら好みの刺繍糸で綴じていきます。

鈴木さんの鮮やかな手さばきに「先生、早すぎます」とスマイルフォンで手元を撮影したり、グループ内で教え合ったりしながらようやく完成しました。今回は御朱印帳のほかに、表紙に道祖神を型押しした俳句帳も作りました。「自分で作った御朱印帳を持つてお寺を巡るなんてすてき」笑顔あふれる楽しい時間でした。

子どもとのふれあいに…

「手あそびとわらべうたの会」赤ちゃんから就園前の子もたちを対象に、今年度から始めました。

ひざにのせる、向かいあつて手をとる、触れる、くすぐる…。親子で気持ちを通わす、あたたかなひと時を過ごしましょう。参加者が増えてきて、ますます楽しくなってきました。

日時・奇数月 第2木曜日
10時30分から30分程度
次回は11月9日(木)です。図書館まで来てね。



手あそび・わらべうたの本やCDもあり
ます。

『あかちゃんとお母さんのあそびうたえほん』
(小林衛子編のら書店)

おすすめ新着本紹介

『ボンネットの下をのぞいてみれば』 エスター・ポーター(六耀社)
ボンネットの下をのぞくと、自動車を動かすしくみがよくわかる。
車好きの君に!
『日本史は逆から学べ』
河合 敦光文社)



現在から過去へ、推理小説を読むように日本史を紐解いていきます。
『大丈夫!何とかなります 血糖値は下げられる』
板倉 弘重/監修 主婦の友社)
ガマンしないで、自力で血糖値をコントロールする方法を紹介します。今日からすぐ始められる生活のコツがいっぱい
です。



『中西悟堂 フクロウと雷』
中西悟堂(平凡社)
日本野鳥の会の創立者による、慈愛あふれる鳥と自然の随筆集。
科学者・作家の珠玉の作品を集めた随筆シリーズ STANDARD BOOKS(平凡社)は、「科学的視点」が特徴です。装丁の美しさも魅力。ほかに
『岡潔 数学を志す人に』
『串田孫一 緑の色鉛筆』など。

山っこ情報局

ちびっこ集まれ!



9月10日(日)、子ども会育成会主催のチャレンジ広場が鷹の窪自然公園で行われました。天候に恵まれないことが多かったチャレンジ広場ですが、今年は秋晴れの空の下45名の小学生が参加し、午前中は飯ごう炊さん隊、おかず作り隊、食事道具作り隊に分かれて、お昼ご飯の用意をしました。飯ごうで炊いたご飯も上手く出来あがり、自分達で作ったカレーと春雨サラダ、フルーツポンチを美味しく食べていました。午後のチャレンジメニューでは、ネイチャークラブ隊、段ボールハウス作り隊、魚釣り隊に分かれ、それぞれジュニアリーダーが中心になって各メニューを体験しました。

ジュニアリーダーの活躍 〜チャレンジ広場〜

チャレンジ広場の開催に向けてジュニアリーダーは、6月から作戦会議を重ね、チャレンジメニューなどを考えて準備を進めて来ました。5名という例年に比べると少ない人数のジュニアリーダーでしたが、任命から3ヶ月の中で自覚も芽生え、成長した姿が見られたチャレンジ広場でもありました。



参加者からの感想

- ・竹で弓矢を作ったら矢が勢いよく飛んで楽しかった。
- ・ダンボールハウスが本物の家のように作れて嬉しかった。
- ・一生懸命作ったフルーツポンチをみんながおかわりしてくれて嬉しかった。
- ・来年はジュニアリーダーになりたい。



通学学舎

9月10日(日)～13日(水)山形村公民館主催の通学学舎が19名の児童が参加して行われました。

子ども会育成会主催のチャレンジ広場への参加から始まった共同生活。トレーニングセンターでの寝泊り、食事作り、そうじ、信大生からの特別講座などを通して、家庭では経験できない事も学び、ひと回り成長する事ができた4日間となりました。



家庭で大切にしたいこと 山形小学校PTAより

本年度の山形小学校PTAは「子どもたちのために」をテーマにして活動を行っています。その中で、それぞれの家庭で大切にしている事をPTA全体でまとめ、各家庭にアンケートを取った結果をまとめたものを、ポストカードにし配布しました。

小学生だけでなく、子どもを持つ家庭で大切にすべきことも書かれているカードです。また、地域の皆さんにもお願いしたいことも含まれています。山形村の宝である子どもたちを育てていく上で、村全体で大切にしていきたいことですね。

家庭で大切にしたいこと



1. 早起き 朝ごはん
2. 笑顔で挨拶 大人から
3. 子どもも家庭の1員！ できることからお手伝い
4. 1日1度はみんなで食事！ 姿勢よく
5. 具体的に話めて わかるように叱ろう
6. 大人が示そう 社会のルール
7. 約束をしよう！ メディアの利用
8. 学校と連絡 宿題の確認
9. 学校に出かけよう！ 参観日

山形小学校PTA

山スポ yamagata sports

9月6日(水)、豊科カントリー倶楽部にて第20回村民ゴルフ大会が165名参加のもと、盛大に開催されました。参加者はボールだけでなく、時おりジョークも飛ばしながら秋空のもとゴルフを楽しんでいました。



優 勝 成 績	
優 勝	大池 徑さん
準優勝	小林 宣章さん
第3位	金井 正弘さん
第20位	坂井 勤さん
男性ベスト	小林 宣章さん
女性ベスト	川上 幸子さん

涼しい清水高原で熱い大会が開催される



9月10日(日)、清水高原にて2017年度全日本学生ロードレース・カップ 山形ヒルクラムラウンド 信濃山形清水高原サイクルロードレースが開催されました。選手たちは、急こう配の上り坂でも力強くペダルを漕ぎ、駆け抜けていきました。



バトンでつないだ想いひとつに



8月26日(土)、第34回東海小学生リレー競技会が岐阜県長良川競技場にて開催され、長野県代表のヤマリククラブ(7月号で紹介)が出場しました。上位入賞は逃したものの、

ベストタイムを更新! 出場した長野県3チームの中では1番の成績でした。



第69回村民運動会のお知らせ

今年も山形村を挙げてのスポーツの季節がやってきました。昨年、一昨年と悪天候により中止となつてしまった村民運動会ですが、次のとおり開催を予定しています。多くの村民のみなさんと、運動会を楽しみましょう。

日 時 10月8日(日) 午前8時30分

場 所 山形村農業者トレーニングセンターグラウンド

色分け
上大池分館 ピンク
中大池分館 水色
小 坂分館 緑
下大池分館 赤
上竹田分館 黄
下竹田分館 オレンジ

その他 雨天中止。決行の場合は当日の朝6時過ぎに花火2発を打ち上げます。

その他不明点は、各分館または、山形村公民館(☎98 3155)までお問い合わせください。

還暦を祝う

今月の

声

「申酉会」に寄せて



実行委員長 笹川 恵子

今年還暦を迎えた私たちは、昭和31年(申)・32年(酉)生まれです。共に還暦を祝い合おうと「申酉(しんゆう)会」が発足し、大勢の仲間からの理解、賛同を賜り、8月14日第33回夏祭り山形じゃんずらに祝賀会の開催及び大スターマインを上げる事が出来ました。実行委員一同御礼申し上げます。

祝賀会では47名の旧友が集ってくれました。「久しぶりだねー!!」こんなあいさつから始まった申酉会でした。中には成人式以来40年ぶりに再会した友もいて、お互いの変化に驚き合ったり、すぐには解らなかつたりでした。でもこの間、5人もの友が亡くなられていた事も知り、年月の流れを痛感しました。皆で亡き旧友を偲びながら、思い出話が尽きませんでしたが、名残り惜しいまま花火大会の会場へ。村内外から集まった驚く程の大勢の人たち。今年も盛大に行われた山形じゃんずらでした。



夜空にきれいに響き上がる大きな花火に感激していると、十三番目の私たちの還暦を祝う大スターマインが打ち上げられました。すると突然友が万歳三唱の音頭をとってくれ、その友に合わせ皆で大きな声で万歳三唱しました。ゴールドで統一された華やかだったあの花火。皆の良き思い出の中のひとつに残っていてほしいと願っています。

実感の無いまま還暦という人生の大きな節目を迎えてしまいましたが、人生まだまだこれからです。「大きな夢と希望を持って」とまでは言えませんが、前向きに歩んで行きたいものです。そして、村内外に住んでいる誰もが「我がふるさと」はここに有り」と胸を張って自慢できるような、やさしく、温かなふるさと山形村づくりを私たちは継いで行かなければいけないのではないかと、改めて気付かせていただいた還暦祝い的一天でもありました。

中学校資源物回収

9月9日(土)、鉢盛中学校の生徒とPTAは各地区ごとにアルミ缶とビール瓶の回収を行いました。

朝早くから皆で協力し、集められた資源物は役場東側駐車場にてきれいに分別され引き取られていきました。収益金は中学校の備品購入などに使われる予定です。



小学校PTA作業



9月10日(日)、小学校でPTAによる運動会の準備や校内の清掃などの作業が、5年生の保護者を中心に行われました。作業のおかげで子どもたちも気持ちよく運動会を迎えられることでしょう。皆さんお疲れさまでした。



おめでた(子・親)

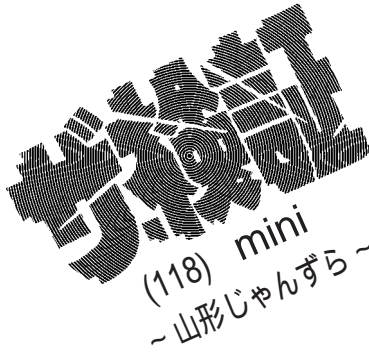
 (敬称略)

- 上條 雅・昇・中大池
- 桐原 健瑠・貴弘・下大池

おくやみ

- 村上 敏子・89歳・下竹田
- 上條 文夫・82歳・上大池
- 森井 一江・90歳・下大池
- 塩原 基男・88歳・上竹田
- 中川 文子・93歳・上大池
- 小林志壽子・88歳・小坂
- 柴 直治・89歳・小坂
- 深澤 志ず・99歳・下大池

夏の風物詩「夏祭り山形じゃんずら」は今年で33回を迎えた。この祭りは実行委員をはじめ、村の各種団体、一般客、出店者、警備員等多くの人に関わる村の一大イベントの一つである。今年、従来の8月15日から8月14日に変更しての開催となったが、なぜ日程を変更したのか、変更せざるを得なかったのかを検証する。



セイジ・オザワ
松本フェスティバル

8月20日(日)、松本市の中心市街地で、国際音楽祭セイジ・オザワ松本フェスティバルを歓迎する吹奏楽パレードが行われました。
小中学校の吹奏楽部や金管

バンドを中心とする56団体、約2,800人が、伊勢町のMウイング前から松本城までの約1kmをパレードしました。沿道には保護者や観光客が大勢詰めかけ、華やかな音色を楽しみました。鉢盛中学校吹奏楽部は、「エル・キャピタン」を元氣いっぱい演奏しました。



昨今、近くで鑑賞できるお手頃な花火大会として知られるようになり、村外から多くの客が訪れている。客が増えることは良いことであるが、その弊害として客のモラル・マナーが問題視されてきている(例えば、路上駐車、ゴミの問題、混雑の問題等)。そのため、警備員増員が必要となり、昨年は、花火の規模を縮小した分を警備会社への委託費用にあてた。しかし、同日近隣の花火大会(諏訪湖花火大会等)と重なっており、十分な警備員の確保ができなかった。そこで今年、開催日を変更することで警備員確保を行った。なお、今回の対外的な周知方法は新聞社(一社)への記事掲載のみだったため、皮肉に

『山形じゃんずら』の目的、誰のためのお祭りなのかを再度考える良い機会だと思う。来場者全員が楽しめる夏祭りであってほしい。



も混雑は解消された。しかし、日程変更を知らなかった人が、15日に場所取りに来たり、トレセンへの問い合わせが数十件寄せられるなど、客への周知については十分とは言えなかった。

みんなの人権 ⑫

「人としての尊厳」を求めて
—ハンセン病問題を考える



「親や兄弟姉妹と一緒に暮らすことができない。実名を名乗ることができない。結婚しても子供を産むことが許されない。一生療養所から出て暮らすことができない。死んでも故郷の墓に埋葬してもらえない。こうした生活をハンセン病患者は長い間強いられてきました。あなたは想像できますか?」(厚労省「ハンセン病の向こう側」 先日開催された「平成29年度長野県人権教育リーダー研修会(中南信地区)」の講演会講師は、上田市在住の伊波敏雄(いとはとしお)さんでした。演題は「人権問題を語り続けて 私の上を通り過ぎたハンセン病問題」。ハンセン病は、かつては「らい病」と呼ばれていました。らい菌の感染力は極めて弱く、現在ではたとえ発病しても、有効な治療薬の開発などにより、一般病院の通院治療で治る病気になっています。しかし、発病の原因がわからず有効な治療が受けられなかった時代には、神経が麻痺したり、

体の一部が變形したりする後遺症が残りました。そのため、日本では、恐ろしい病気として、「らい予防法1907(M.40)年」が制定されて以来、1996(H8)年に法が廃止されるまで、89年もの間、患者を強制的に隔離施設に收容する政策を採ってきました。そして、法の廃止の後も、元患者たちは、この病気への誤った認識がなかなか払拭されない社会状況や、入所者の高齢化や長期の隔離生活などにより、冒頭の文のように、今なお「偏見と差別」に苦しめられています。「畑谷史代、差別とハンセン病 終の垣根は今も」(平凡社新書)等参照) 伊波さんは、1943(昭和18)年沖縄県出身。14歳でハンセン病と診断され、沖縄愛楽園に隔離收容されました。中学校卒業の後、まだアメリカの統治下にあった沖縄から多くの人に支えられて本土に渡り、隔離施設内の高等学校や施設外の専門学校で学び続けました。そして、この病気への偏見や差別の残るなか、伊波さんは、ハンセン病回復者であることを隠さずに生きてきました。それは、「人としての尊厳」を求め続ける苦難の活動でもありました。そして、県内の小中学生たちとの交流や、地域・保護者との連携などを通して、「お互いに交りあい、科学的な学びを通して、『偏見や刷り込み』から脱却していく努力が求められること」を訴え続けてきました。その活動は、海を越えて、海外にまで広がりをみせています。「伊波敏男、ハンセン病を生き延びてきた私たちに伝えたいこと」(岩波ジュニア新書)「花に逢はん」(NHK出版)等参照) (H29.9 M.H記)



素敵なペア

古畑 ^{やす よし}安喜さん
愛犬 さくらちゃん
(小坂)



絆

KIZUNA

愛犬さくらちゃんとの出会いは、某ペットショップで安喜さんが一目ぼれしてその日から家族の一員になりました。普段は室内で飼われ4人で暮らす安喜さん家族にとつて癒しの存在です。また、警戒心もあつてか知らない人が来ると吠え、番犬としても頼もしい一面もあります。そんなさくらちゃんも12歳となり、人間でいうと68歳の老犬となりました。

日課となつていいる散歩は朝と夕方の2回です。朝は自宅周辺を1時間30分くらいかけて、夕方はスカイパークまで車で行き、朝と同じくらいの時間の散歩を楽しんでいます。さくらちゃんは普段はゆったりしていますが、散歩で知り合つたお気に入りの人や犬を見つけると走つてじゃれつくこともあるそうです。

「さくらはすぐ休んじやうんだよね」と微笑む安喜さんもさくらちゃんと歩くペースがお気に入りの様子。地面にべたつと寝そべるさくらちゃんとニコニコしながらその横でしゃがんでいる安喜さんの姿が素敵なペアで、周囲の空気を癒しています。

成人式でパート

上條理香子さん

中大池
(さそり座)



宮崎 颯太さん

上竹田
(みずがめ座)

保育士めざして



エンジニアの卵



京都に本社を置く電力事業関連の企業に就職が内定している颯太さんは、長野工業高等専門学校・電気電子工学科5年生です。

高専ではサッカー部に所属、今年是全国高専大会へ出場の原動力になりました。

趣味は運動・読書・映画鑑賞と幅広く、特に読書は登場人物への感想が読み手の視点によって異なり、友人と意見交換するのが楽しいそうです。

「自分の行動に責任を持つ」と成人の決意を話してくれた颯太さんは日本の将来を担うエンジニアの卵です。

成人式では、姿こそ変われど中身は変わっていない友人との再会を楽しみ、「山形村に生まれて本当に良かった」と、理香子さん。

現在、埼玉県の大東文化大学・文学部教育学科に通う2年生。「幼少期は人生でとても重要な時期であるということとを学びました。もともと子どもは好きでしたが、保育士はとてまやりのある仕事であると再確認できました。同じ夢を追う学友と共に切磋琢磨し勉学に励んでいます」「リカコ先生」と呼ばれる日もそう遠くはないですね。